報告：華人統合の象徴としての孫文と林則徐

櫻井良樹

１．はじめに

筆者は以前本誌に「辛亥革命記念空間と観光施設―東南アジアとアメリカを題材として―」という一文を寄稿した[1]。これは羅福恵・朱英主編『辛亥革命的百年記憶与詮釈』の第 4 巻『紀念空間与辛亥革命百年記憶』[2]が、辛亥革命に関する記念空間・記念物注目して、それが出現した歴史的経緯や政治・社会的意味づけを明らかにしていることに触発されたものであった。

同書においては、辛亥革命の立役者であった孫文を記念する空間における様々な活動が、「中国人達を凝集させる中心的な役割を果たしている」こと、海外における革命関係の記念物が、国内・海外の華人、両岸の人々を繋げる役割を果たしていることが指摘されている。

辛亥革命と日本との関係に興味を抱いていた筆者も、海外においてどんな記念物があるのか、特に孫文像を中心にして現地調査をした。これらは前掲書第 4 巻第 12 章「海外辛亥革命紀念空間」（劉伝吉・冀暁雷・丁広義執筆）を手がかりにしたもので、その調査記録が前掲のものである。そこでは、東南アジアにおいては、孫文は大陸・台湾双方を結びつけるシンボルになってはいるが、まだアメリカでは、孫文が大陸と台湾の団結の象徴になるという仮説は通用しない現実を描いておいた。

その後も、当時確認できなかったものを、折りにふれて訪ねた。主に北米大陸においてであるが、バンクーバーやサンノゼ、

1　『中国研究』第 23 号 41～65 頁、2016 年 12 月。

2　羅福恵・朱英主編『辛亥革命的百年記憶与詮釈』全四巻（華中師範大学出版社、2011 年。

ロサンゼルスなどである[3]。このような調査では、結果的に各地の中華街を訪問し、公園や街角の記念物を網羅的に見て記録して歩くことになり、辛亥革命や孫文だけでない記念物・建築物などに出会うことになった。それが牌楼（中華門）であり、華人博物館であり、関帝廟や孔子像、その他の像である。

どの中華街にもある中国風の門（牌楼）については、たとえばバンクーバーやロサンゼルスのそれに内外華人の協力によってなされたものであることが刻まれているように、それが華人を統合する役目を持っていることは明らかである。孫文の位置づけが中華民国と中華人民共和国で異なり、彼の像を立てることには必然的に政治性が絡むのに対して、門は歴史性や政治性が薄いものなので（ただし門に掲げられている額が誰の書であるかは重要だが）、統合の象徴となりやすいということだ。

2. ニューヨークにて

筆者は平成 29（2017）年 8 月にニューヨークに立ち寄ったついでに、チャイナ・タウンを訪問した。近くの Columbus Park に孫文像があることがわかっていたからである。その像の正面には「天下為公」という孫文のお決まりの書と署名が刻まれ、左側面には中国文（繁体字）で孫文の簡単な伝記がニューヨーク中華公所主席伍権碩の名で書かれ、ここに中華民国百年 11 月 12 日の日付が添えられていた。つまり辛亥革命 100 年記念物として 2011 年に立てられたものである。右側面は、英文

3　これらの場所についても前掲論文の補注で簡単に紹介した。

の孫文伝で、背面には建設にかかわった団体と個人名が記載されていた。北京という字が入っている会社が一つだけあったが、多くは台湾系のようだった。周りでは、多くの華人たちがゲームをしたりする見慣れた風景があった。

ニューヨークのチャイナ・タウンの中心は、200m 四方くらいの大きさで 8 つのブロックに飲食店がひしめいている、それほど大きなものではないが、その飲食店を囲む外側にも、孔子プラザや大乗寺のような関係施設がある。北側にはイタリア・レストラン街があり、そこに美国華人博物館もある。

以前は中心部にあったようだが、数年前に移転して新築された。この博物館はこれまでアメリカで見た華人博物館の中では、もっとも充実した展示で、アメリカにおける華人の歴史を、1785 年に初めて中国に来た 3 人から始めて、開拓への協力、迫害の歴史、日本との戦争の中での中米友好、第二次世界大戦後の冷戦期におけるイメージの悪化、そしてアメリカに根付いた華人たちの活躍の姿などが展示されている。そこでも孫文の中華民国建国が、アメリカの建国精神と孫文の三民主義を並べて大きく一面を使って紹介されていた。なお展示の説明は簡体字であった。

チャイナ・タウンの東側にある孔子プラザの前には、アメリカ建国 200 年を記念して 1983 年にニューヨーク中華公所が建立した孔子像が鎮座しているのだが、驚いたことに、その背面にも「天下為公」という孫文の書が、ただし Columbus 公園のものとは違って署名無しで刻まれていた。後ろに木があり、その狭い空間に入らないと見えない、まさにわざと隠されている

ような感じであった

そのほかKimlau Squareの小さな広場空間には、「華裔軍人忠烈坊」（In Memory of the Americans of Chinese Ancestry who Lost their Lives in Defence of Freedom and Democracy）と書かれたニューヨーク華裔退伍軍人会が建設したゲート状の慰霊門（碑）が立っていた。

3. 二つの林則徐像

そしてもう一つ、その横にあったのが林則徐像であった。

その台座には、以下の語句が刻まれていた。これを見た時には、ドラッグが問題化しているアメリカにおいては、林則徐は麻薬撲滅運動の先駆者として評価されているのだろうくらいの感想しか浮かばなかった。繁体字である。

世界禁毒先驅林則徐
ＬＩＮＺＥＸＵ
1785-1850

PIONEER IN THE WAR
AGAINST DRUGS

ところが平成 30（2018）年夏に、再びアメリカで林則徐像にめぐり会った。フィラデルフィアのチャイナ・

タウンの北側の入口に、ワシントンと思われる人形の像と並んで置かれていた。

Lin Zexu Memorial Statue と題され、費州（フィラデルフィア）福建同郷会の林明華が贈送したと記され、その下に英語と繁体字で、林の簡単な紹介と、アヘン禁止を推進したことと、イギリスとの間での戦争の原因となったこと、今では中国史におけるナショナル・ヒーローとして尊敬を受けていることが記されていた。

どうも林は、アメリカの華人たちにとって、その功績がアメリカ人にも理解され、また自分たちも誇ることができやすい華人を象徴する価値を有する人物のようなのである。

4. 林則徐紀念館

ニューヨークで林則徐像を見たことが気になっていたこともあり、中国に行く機会を利用して福州林則徐紀念館を訪ねた。福州は林の故郷である。

林については、通りいっぺんの知識しかなかった筆者にとって、現在の中国における林の評価を知ることができたという点で、その展示は興味深いものであった。

大雑把に言って、彼のアヘン厳禁・没収政策は、

イギリスとのアヘン戦争をもたらすことにはなったが、彼は開明的洋務官僚として中国社会の改革に大きな業績をあげた人物であるということである。

清国にとってアヘン戦争での敗北後の歴史が、その後の列強諸国による侵略と半殖民地化の歴史、あるいは克服されなければならない歴史であるとしたら、その原因を作った林の位置づけは屈辱をもたらした人物という評価も可能である（かつての評価がそれに近かった）。いっぽう列強の侵略に抵抗した人物とも言える。その人物が、西洋を積極的に学んだ洋務派官僚であるから、話はちょっと複雑である。

しかし展示は、開明的官僚だったからこそ、西洋を知り西洋に抵抗できたという筋で描かれていた。これはまさに改革開放により「現代化に成功」した中国の現在の体験をふまえて、過去を振り返った時に、林の試みは挫折したが果敢に行おうとしたことは現在から見れば理解できるという意味で、林を民族英雄として評価することができるという論理なのだろう。

展示室はかなり充実しており、5 つの部分で、生涯やアヘン戦争などについて説明してあった。A 区は誕生から官途に登り、開国論を唱えるまで、B 区は治水をはじめとする治績、洋務派官僚としての事績、C 区は引き続いて世界の発展に注目した人物、D 区はアヘン禁制の先駆者、E 区はアヘン戦争に触れ、民族英雄としての現代的意義という展示になっていた。

なおアヘン戦争後に新疆に左遷された後の時代のところと関連させて少数民族の理解者という位置づけもなされていた。

5. おわりに

この記念館の展示の最後の部分では、中国圏にある林則徐関係の記念館と像が紹介されていた。そこに掲げられていた写真は、以下のとおりである。沙角海辺林公則徐紀念碑・蘇州林則徐紀念碑・伊犂林則徐紀念碑・福州林則徐出生地・澳門林則徐紀念館・福清林則徐紀念堂・広東魯寧紀念館・陶林二公祠・陝西蒲城林則徐紀念館・錆烟池旧址・浙江鎮海楼紀念堂、そして像としては福州・烏魯木斉・蛇口・澳門・伊犂・虎門・開封である。マカオ（澳門）にもある。

いっぽう海外については、ニューヨークの像が紹介されていたが、フィラデルフィアのものはなかった。手元で検索してみるとシンガポールの中国庭園にもあるようである[4]。不思議なことに台湾にはまだ無いようであり、香港では歴史博物館の展示品としての像だけであるようだ。孫文記念物が東南アジア（シンガポール、マレーシア）だけでなく、日本や台湾、そしてイギリス、アメリカ・カナダなどの各地にあるのに対して、まだ林則徐については、それほどの広がりはないが、アメリカでの2つの像の出現を考えると、今後増えていくと思われる。

※本文中に掲載した写真は筆者の撮影による。

〔付記〕本稿は平成 27～29 年麗澤学大特別研究助成プロジェクト「アジア地域の移動・流動する社会に関する歴史文化的研究」、平成 27～29 年度麗澤大学経済社会総合センタープロジェクト「教育が歴史、文化、社会に与える影響に関する研究～東アジア域を中心に～」による研究成果の一部である。ただし本稿で扱った調査の旅費は、以上の予算から支出したものではない。

[4] https://www.alamy.com/ stock-photo-statue-of-lin-zexu-singapore-chinese-garden-76231395.html